津波、洪水、土砂災害に備えて

▽問い合わせ先＝建設課（☎内線320）

今、市内では、東日本大震災からの復興に向けて、復興まちづくりの基盤となる防潮堤や水門など海岸保全施設の復旧・整備が進められています。

一方、近年は、全国で局地的豪雨が多発しており、市民の命と暮らしを守るために、河川の洪水、土砂災害に対する備えも求められています。

本号では、津波災害に備えるための主な海岸防潮堤や水門などの整備の状況と、河川の洪水、土砂災害への対策の状況をお知らせします。

着々と進む 津波災害対策

越喜来地区海岸、下甫嶺地先海岸の防潮堤・水門整備

東日本大震災津波により、越喜来地区海岸では海岸防潮堤が倒壊・流失し、三陸支所を含む越喜来の中心市街地は壊滅状態になりました。

越喜来地区海岸の復旧・整備にあたり、防潮堤の高さは、最大クラスの津波ではなく、比較的頻度の高い数十年から百数十年に一度発生する津波の高さとしており、復興まちづくり計画を踏まえて地元と協議しながら設定をしました。

岩手県では、平成29年9月までに海岸保全施設としての防潮堤、護岸、離岸堤、浦浜水門、泊水門の躯体工事が完成しました。

さらに、浦浜水門、泊水門の上屋工事は、平成29年11月に完成し水門の機械設備工事を残すのみとなりました。

下甫嶺地先海岸でも平成29年11月30日に防潮堤と甫嶺水門、矢作水門の躯体工事が完成しました。甫嶺水門、矢作水門の上屋工事は平成30年4月に完成しました。

こちらも引き続き水門の機械設備工事を行っていきます。

越喜来地区海岸では、防潮堤の天端高を震災前のT．P．＋7・9mから津波対策のためにT．P．＋11・5mとしました。主な施設として防潮堤899m、突堤240・5m、人工リーフ120・7m、浦浜水門1基（水門上屋工事完成）などです。

汀線と防潮堤との約50m間には30㎝の砂を敷きました。

津波伝承施設としての看板も設置しています。

・総事業費＝91億4，300万円

50mの幅で砂を敷いた越喜来地区海岸

【用語解説】

・T．P．
東京湾平均海面（全国の標高の基準となる海水面の高さ）

・人工リーフ
海岸から少し沖の海底に海岸線とほぼ平行に築いた人工的な暗礁（潜堤）

下甫嶺地先海岸でも越喜来海岸と同様に、震災前の防潮堤天端高T．P．＋7・9mを津波対策のためにT．P．＋11・5mとしました。

主な施設として、防潮堤348・9m、甫嶺水門1基、矢作水門1基（上屋工事完成）などです。

防潮堤工事に伴い市道の付け替え工事319・7mも行い完了しています。

・総事業費＝39億3，000万円

引き続き水門の機械設備工事が行われる下甫嶺地先海岸

盛川、須崎川、後の入川の防潮堤・水門整備

■盛川の防潮堤・水門整備

盛川では、東日本大震災による津波が堤防を大きく越え、河口より4㎞以上遡上し、堤防が2箇所決壊するとともに、護岸が2，500m以上壊れるなど甚大な被害を受けました。

岩手県では津波対策として、延長901m、高さT．P．＋7・5mの堤防かさ上げ区間を含む約2・3㎞の堤防復旧および川口橋の架け替えに平成23年度から着手しており、平成30年度末には堤防工事を完了する予定です。

・事業費＝115億8，200万円

盛川（塩場）

■須崎川の防潮堤・水門整備

須崎川は、津波による被害とともに、地盤沈下によって洪水時の危険性が高まりました。岩手県では津波対策として、河口部の水門1基を改築するとともに、河口から国道45号までの区間535mの河川改修を行っています。

現在、河川改修はほぼ完了し、水門本体もおおむね半分の進捗となっています。平成30年度の本体工事完了後、ゲート設備、上屋工事に着手し、平成32年度の完成を目指しています。

・事業費＝55億2，300万円

須崎川水門完成予想図

■後の入川の防潮堤・水門整備

後の入川の津波対策として岩手県では水門1基を整備することとし、平成27年度から左右岸に接続する防潮堤とともに工事に着手しています。

平成30年3月末時点で、水門本体のおおむね半分が完了しており、平成30年度は本体工事を進め、平成31年度に水門本体の完了およびゲート設備、上屋工事に着手し、平成32年度内の完成を目指しています。

・事業費＝27億5，800万円

後の入川水門完成予想図

▷問い合わせ＝市役所☎0192㉗3111